

令和2年度授業改善プラン

中野区立中野中学校

1 全体計画

【教育目標】
英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

【校訓】
自律 共生 創造

【令和2年度学校経営方針】

(基本方針)

- ☆教育目標・経営方針のもと、具現化を目指し全教職員が一体となって全生徒を育てる。
- ☆何よりも授業を大切に、その土台となる学級活動を充実し、行事・部活動も活性化して知・徳・体のバランスのよい生徒を育てる。
- ☆教師が時代のニーズにあった研究・修養に励み自己を成長させ、意識改革・行動改革・働き方改革を図る。

(経営の重点：学習指導に関連したものの抜粋)

- 授業規律の徹底し、基礎・基本の習得とそれらを活用する力を育てる。全体的に学ぶ授業改善、ICT、UDLの活用等を通して、生徒の意欲を高めるわかりやすい授業を目指し、適正で信頼される学習評価の実施する。
- 年間指導計画のもと、標準授業時間数を確保し、単元・その時間の指導のねらいを明確にして日々の授業を行う。
→「ねらいの視覚化」「主体的な活動」「振り返りの時間確保」
- 家庭への働きかけを通して、授業の予習・復習を中心に家庭学習の習慣化を図る。
- 「家庭学習の手引き」を保護者・生徒へ示し、家庭学習時間が、[学年×10分+60分]以上となるよう、計画的に家庭学習をする習慣を身に付けることを目指す。
- 読書活動を推進し、主体的に学ぶ姿勢をはぐくむ。
- 読書が人間性をはぐくむ有意義な習慣であることを生徒に浸透させていく。
- 8時25分からの静かな環境の中で朝読書を徹底し、月2冊以上本を読む生徒が50%以上なることを目指す。

本校のとらえる「確かな学力」

- 各教科における基礎的・基本的な知識や技能の定着
- 基礎的・基本的な知識や技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力（特にコミュニケーション能力）の育成
- 主体的に授業・家庭学習・読書に取り組む態度の育成

令和2年度の指導の重点

(各教科)

- ・ 基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるために指導と評価の一体化を工夫した授業を展開するとともに、任期付短時間勤務教員の活用を通して、チームティーチング、少人数学習制度別による指導、学生ボランティア等により生徒一人ひとりの学習意欲を高め、良さや可能性を伸ばせるような評価を工夫する。
- ・ 国や東京都、中野区の学力調査の結果を分析して授業改善プランを作成し、より分かりやすい授業を一層推進するとともに、一人ひとりに応じた補充的な学習の実施や夏の補充学習教室、定期考査前学習支援などで家庭との連携を通して、自主的な学習習慣及び学習内容の確実な定着を目指す。
- ・ あらゆる教育活動を通して、情報収集・記述・発表・話し合い等の言語活動を充実し、コミュニケーション能力を高めるとともに、主体的・対話的な深い学びを展開することにより、自ら学び考える力を育成し、各教科の目標を達成することを目指す。

<特別の教科 道徳>

- ・ 教育活動全体を通じた道徳教育を充実させ、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めることを重視し、生徒が自他の生命、人権を尊重し、公共の精神及び、自己肯定感を大切にできるよう指導する。
- ・ 道徳教育の全体計画、道徳科の時間の年間指導計画に基づいて、教科書及び「心みつめて」を教材として、考え、議論する道徳の時間を系統的に進めるとともに、道徳教育推進教師を中心に、指導方法の工夫・改善を図り、学習過程を通じた生徒の成長を、認め励ます形で適切に評価していく。

<特別活動>

- ・ キャリア教育の要として学級活動や生徒会活動、宿泊体験学習等を含めた学校行事や集団活動を通して、望ましい人間関係を築き、いじめの未然防止となる指導を工夫するとともに、課題を自主的・実践的に解決しようとする集団としての合意形成を育成する。体験的な学習を重視し、自己の生き方についての考えを深め、キャリア・パスポート等を活用して、主体的に将来設計、進路選択をする態度を養う。

<総合的な学習の時間>

- ・ 全体計画に基づき、教科横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるように、SDGsの視点と関連させながら、探究的な学習や課題解決的な学習を取り入れ、自ら課題を設定して情報を収集したり選択したりする能力、主体的な判断のもとに、よりよく課題を解決する能力を育成する。

<生活指導>

- ・ 将来の社会の形成者として、基本的な生活習慣を身に付け、集団の中での役割と責任を自覚し、規範を守る態度を育成する。

<進路指導>

- ・ キャリア教育全体計画、年間指導計画に基づいて、発達の段階に応じた系統的な指導を重視し、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の育成を図るとともに、各教科等の学習内容と関連させながら、学ぶことや働くことの意義を十分理解して、望ましい勤労観・職業観を形成できるような指導を心がける。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫
・ 少人数やチームティーチングによる指導
・ ICT、UDLの効果的な活用
・ 学生ボランティアの活用

教育課程編成上の工夫
・ 二学期制
・ 朝読書
・ 面談の活用
・ 年間指導計画の見直し

評価の工夫
・ 確かな学力の共通理解
・ 評価基準の見直し
・ 継続的な評価の工夫

校内研究・研修の工夫
・ 道徳授業の工夫改善
・ キャリア教育、小中連携教育の推進

家庭・地域との連携の工夫
・ 乗り入れ指導の実施
・ 「家庭学習の手引き」の活用
・ 地域人材の活用

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

生徒の一人ひとりの学力をのばすために、生徒一人ひとりの学習状況に応じたきめ細やかな指導、基礎学力の定着しない生徒への学習支援、少人数指導、ティーム・ティーチング、放課後の学習指導や教材作成などを行い、学力向上を目指す。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- 漢字の読み書きと語彙の習得
- 目的と読み手／聞き手を意識した、書く能力、話す(話し合う)能力の育成
- 説明的文章の読解を通じた論理的思考力の育成
- 文学的文章の読解を通じた想像力・発想力の育成
- 複数資料の比較や対話的活動を通じた自分の考えの形成

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとの語句・漢字プリントの活用によって、定期考査における「言語に関する知識・理解・技能」の平均正答率が65%を上回っている。 ○定期考査における「読むこと」と「書くこと」の正答率に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的作品の心情理解をなんとなくで済ませてしまう生徒が見られる。 ○文章を書くなかで、誤字脱字や主述のねじれ等、適切でない表現が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○心情の根拠となる叙述をしっかりと捉えさせ、「なぜその心情になるのか」ということを主体的に考えさせる。 ○「書くこと」の授業のなかで、読み手の目線から自分の書いた文章を読み直し、書き直す機会を適宜設定する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとの語句・漢字プリントの活用によって、定期考査における「言語に関する知識・理解・技能」の平均正答率が70%を上回っている。 ○定期考査における「読むこと」と「書くこと」の正答率に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章の内容を正しく読み取ることはできるが、そこから自分なりの解釈へと考えを深めていくことに課題がある。 ○文章を書くなかで、目的やテーマから逸れてしまう生徒が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○解釈のための技法として、批評理論をもとにした思考方法（構造的読解、対照性・象徴性の把握など）を学習し、活用させる。 ○「書くこと」の授業のなかで、条件に沿って文章を書く練習を定期的に行う。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとの語句・漢字プリントの活用によって、定期考査における「言語に関する知識・理解・技能」の平均正答率が65%を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○筆者の主張に基づいた自分の意見を述べる作文への苦手意識が強い生徒が多く見られる。 ○文学的作品の心情理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○筆者の主張と自分の経験をつなげたり、伝えたい内容を整理させたりする時間を設定する。 ○語彙の不足が原因の一つであるため、単元ごとに意味を確認させる。また、情景と心情のつながりを意識させて読ませる。

(2) 社会科

<p>社会科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基礎的・基本的な知識および技能の習得を重視する。 ●言語活動の充実の観点から、社会的な見方考え方を養うことを重視する ●社会参画、様々な伝統や文化、宗教に関する学習などを重視する。 ●持続可能な社会を形成するという観点から、社会的な課題の探究と考えをまとめる学習を行う。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○授業では積極的に取り組む生徒が多く、発言も活発である。 ○基礎的な知識・理解の定着が図れていない生徒がいる。 ○表現することや資料から必要な情報を読み取ることに課題を有している生徒も一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識・理解の定着が図れていない生徒がいる。 ○地理的事象の原因や理由を思考できる生徒が多いが、表現することに課題を有している生徒も一定数いる。 ○資料から必要な情報を読み取り、整理したり表現したりすることに課題を感じている生徒も一部見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○より意欲的に授業に参加する姿勢を身に付けさせるため、家庭学習の課題等を取り組ませ、基礎学力の向上を図る。 ○思考する時間だけではなく、思考の過程と結果を記述したり共有したりする時間を設けることで表現力を高める指導を行う。また、発表する活動も行う。 ○地図帳・資料集を活用し、資料の読み取りや書き込み作業を繰り返し行うことで、資料活用の技能を高める指導を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ○真面目かつ意欲的に取り組む生徒が多い。 ○基礎的な知識の定着がはかれていない生徒が一部見られる。 ○資料を活用して思考する力や表現する力が不足しており、苦手意識をもっている生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年次の地理的分野の積み残し(オセアニア州)や歴史的分野の積み残し(鎌倉時代・室町時代)を計画的に指導する。 ○基礎的な知識・理解の定着が図れていない生徒がいる。また、既習内容を活用して表現することに苦手意識をもっている生徒が一部見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習内容や社会的事象との関連づけを行いながら、生徒が意欲的に学べるように工夫する。 ○单元ごとに個人で振り返る課題を行い、それを共有することで多様な視点から学ぶ機会を設定する。 ○ワークや復習プリントを活用し、繰り返し問題を解くことで基礎基本事項の定着を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な知識は定着してきた生徒が多い一方、古代・中世など1年時に学習した事項を理解していない生徒も見られる。 ○歴史的事象に関して、時代を越えたつながりを見出すことに課題を感じている生徒がいる。 ○資料から読み取ったことを思考し、表現することに課題を感じている生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2年次の地理的分野の積み残し(身近な地域の調査)や歴史的分野の積み残し(明治時代)を計画的に指導する。 ○基礎的な知識・理解の定着が図れていない生徒がいる。 ○資料の読み取りや資料から思考することに苦手意識を持っている生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3分野の関連づけを意識的に行うことで、社会的事象への関心を高める。 ○定期的な小テストの実施により地理や歴史の基礎基本問題の確認を行い、学習の定着を図る。 ○資料の精選を行い、授業内で資料を活用し考え、表現する活動を多く設定することで資料活用の技能を向上させる。

(3) 数学科

数学科の重点

- 「生徒が考える授業」「生徒が主体的に取り組む授業」の実現に向けて指導法の工夫改善を行う。
- 習熟度別指導を活用し、効果的な個別指導を行う。
- 継続的に学習課題を提供し、家庭学習の定着を図る。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○授業内の意欲は高い方で、諦めずに考える生徒は多い。ただ、授業中に理解できるようになっても、復習することが苦手であり、定着はしにくい。 ○分数の計算を苦手にしてる生徒が多い。逆に小数の計算はある程度できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業に真面目に取り組む生徒が多く、発言や質問など積極的に行えるようになってきている反面、反復して学習せず（宿題をやってこない）、理解が曖昧になっている生徒が多い。 ○基本的なことが定着していない生徒は宿題だけではなく、忘れ物も通年よりも多く、自分で前時の内容の確認などができないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○宿題をやってきたかの確認する。なるべく授業内で理解できるように、前時の復習、スパイラル的な学習の場面を増やす。 ○小テストなどを行うことで、家庭でも学習しようとする機会をつくる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○計算問題を苦手にしてる生徒は少ない。少人数指導なので、個々に対応して指導できるので、苦手意識をしている生徒は少ない。しかし、文章題や、「数学的な見方・考え方」の問題では、最初からあきらめて、考えようとしないう生徒もいる。また、文章題の意味が分からない生徒もいるので、説明してやると分かる生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業は真面目に取り組んでいるが、主体的に考えたり、質問・発言をしたりする生徒が少ない。 ○習熟度別クラスで、基礎コースの生徒の学力の差が大きく、個々に対応しないと全く手を動かさない生徒もいる。 ○家庭学習ができていないため、授業内では理解できていることが、次の授業やテストなどでは、解くことができない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中に、考える時間を十分にとり、お互いに学び合う機会をつくることで、生徒が主体的に取り組めるようにしていく。 ○学生ボランティアにも協力してもらい、きめ細かい机間指導を行う。できるだけ授業内でサポートできるようにするが、試験前の補習教室や質問教室を活用する。 ○授業内での理解にとどまらないよう、授業ごとに宿題を出し、家庭学習を定着するように指導する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別指導で、計算に苦手な生徒に個々に対応しているため、計算問題に苦手意識を持っている生徒が少ない。 ○定期考査における「数学的な技能」の問題の正答率は良いが、「数学的な見方・考え方」の正答率が低く、最初から文章題には手をつけようとはしない生徒もいるなどの課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業は真面目に取り組む、その都度の授業内容は理解できているが、計算問題でテストのように解き方がそれぞれ違う問題が数問出ると、どの公式を使って解けばいいかわからない生徒がいる。 ○文章を読解して立式したり、グラフからその特徴を読み取ったりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○その授業内だけの復習にならないよう、宿題の出し方を工夫し、家庭学習での定着を図れるようにしていく。また、試験前の質問教室を活用する。 ○デジタル教科書を活用して、視覚的にも理解しやすいような工夫を行い、自分の言葉で説明できるくらい理解が深まるように指導する。

習熟度別少人数指導の充実及び任期付短時間勤務教員活用の工夫

全学年で習熟度別授業を行っており、クラスごとの定着状況や生徒のニーズに合わせた学びが展開できている。また、基礎コースでは、少人数かつ任期付短時間勤務教員や支援員をつけることにより、個別の対応に備えられるようにしている。生徒が、自主的に質問し課題に取り組もうとする生徒が増えている。

(4) 理科

<p>理科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的意識をもって観察・実験を行い、科学的に調べる能力や態度を育てる。 ●観察・実験の結果を整理し考察する学習活動、科学的な用語を使用して、考えたり説明したりする学習活動、探究的な学習活動を充実する。 ●科学的な知識の定着や論理的な考え方を養う。 ●自然現象に興味をもたせたり、自然体験、科学的な体験を充実させたりする。さらには、科学的な表現を使いまとめる方法や発表する方法を習得する。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組む生徒が多い。実験観察もていねいに取り組める生徒が多い。 ○実験結果から理論的に考察したり、まとめたりする力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループによる話し合い活動や実験・観察の実施が難しい。 ○授業・観察・実験の学習のねらいを明確にして授業を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業で、生徒個人でまとめる時間、考える時間を確保し、それらを共有することで思考力、表現力を向上させる。 ○毎時間ごとに授業評価を行い、学習意欲を向上させる。 ○单元ごとに小テストや復習ノートなどに取り組み、基礎基本の定着を図る。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組む生徒とそうでない生徒に二分化される。 ○学習内容を表面的な理解に終わらせる生徒が多く、応用力、表現力が定着しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○火山・地震など、1年次の地学的分野の積み残しを計画的に指導する。 ○知識を分類したり、それを使って、原理を考えたりする力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なものやモデルなどを例に出し、実際に見たり体験したりする活動を増やして、興味・関心を高め、知識を定着させる。 ○学習した知識を使って、考察する活動を取り入れ、表現する力を向上させる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組む生徒とそうでない生徒に二分化される。 ○基礎基本は理解しているものの、その理解が表面的なため、その知識を活用して自然現象を説明することが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「電流のはたらき」など、2年次の物理学的分野の積み残しを計画的に指導する。 ○知識を使って説明したり、実験から分かることを考察したり、「活用」の経験が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○習得した知識を活用した説明ができる活動や既習知識を使って、考察を書く力を向上させる。 ○どの单元においても自然現象との関連づけを行い、知識の活用を目を向ける。

(5) 音楽科

<p>音楽科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 発達の段階に応じた音楽活動の基礎的な知識と技能の定着を図る ● 音楽に興味・関心をもたせ、学習意欲を高める ● 模範演奏の表現や互いの演奏を聴き、表現の幅を広げる ● 感じたことを自分なりの言葉で言い表したり書き表したりできるようにする

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 真面目に意欲的に取り組む生徒が多い。 ○ 感じたこと、思ったことを適切な言葉で表現することが苦手である。 ○ 歌唱において、どのように表現したいか考えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 正しい発声法が身に付いていない生徒がいる。 ○ 表現する語彙が不足している。 ○ 歌唱において、どのように表現したいか考えることが苦手である。 ○ 読譜の知識が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合唱の練習を通して、模範となる上級生の声や歌い方を学ぶ機会を作る。 ○ 表現に必要な語彙、言い表し方の例を提示、使えるようにする。 ○ 活動の録音、録画による振り返りの時間をもつ。 ○ 授業で写譜を扱い、楽譜に慣れる。細かな音楽記号の指導を行う。 ○ 振り返りシートを活用する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意欲をもって取り組む生徒と、消極的な生徒と二極化している。 ○ 感じたこと、思ったことを適切な言葉で表現することが苦手である。 ○ 音量が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 正しい発声法が身に付いていない生徒がいる。 ○ 表現する語彙が不足している。 ○ 読譜の知識が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合唱の練習を通して、模範となる上級生の声や歌い方を学ぶ機会を作る。 ○ 読譜に慣れるための発問を増やす。 ○ 授業で写譜を扱う。 ○ 振り返りシートを活用する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌唱に対し、消極的な生徒が多い。 ○ 感じたこと、思ったことを適切な言葉で表現することが苦手である。 ○ 歌唱において、どのように表現したいか考えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 正しい発声法が身に付いていない生徒がいる。 ○ 自分たちの歌唱を聞いて、客観的に批評する力が不足している。 ○ 「どのように表現したいか」考えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習曲を取り入れ、歌いやすい雰囲気を作る。 ○ 表現に必要な語彙、言い表し方の例を提示し、使えるようにする。 ○ 模範演奏を鑑賞し、楽曲に適した表現について話し合う。 ○ 活動の録音、録画による振り返りの時間をもつ。 ○ 振り返りシートを活用する。

(6) 美術科

美術科の重点

- 集中力を高め、意欲的に学び考え、表現することを楽しむ。
- 基礎基本の習得・活用を行い、創造的な技能を生かしながら自分らしさを表現していく。
- 感情や思いなどを自分なりの言葉で表現し深める。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知的好奇心が強く、意欲的に取り組む生徒が多い。 ○ 鑑賞・制作共に興味を持って取り組みができる生徒が多い。 ○ 忘れものが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉の理解が出来ない生徒の指導を考える。 ○ 忘れ物をなくす工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒にとって魅力のある参考作品を用意し、意欲を高める。 ○ 製作時間を確保したい。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知的好奇心が強く、意欲的に取り組む生徒が多い。 ○ 集中し、粘り強く細かい作業作品の質を高める生徒が多い。 ○ 鑑賞・制作共に興味を持って取り組みができる生徒が多い。 ○ 友人同士で作品のアドバイスの場面が多く見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集中力が持続しない生徒が数人いる。 ○ 提出の締め切り間近になると、あわてて失敗したり、雑になってしまう生徒が複数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒にとって魅力のある参考作品を用意し、意欲を高める。 ○ 制作残り時間と作業にかかる時間を可視化する。また、毎時間確認をする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知的好奇心が強く、意欲的に取り組む生徒が多い。 ○ 集中し、粘り強く細かい作業作品の質を高める生徒が多い。 ○ 鑑賞・制作共に興味を持って取り組みができる生徒が多い。 ○ 自分の意見をまとめ、発表することが苦手な生徒が多い。 ○ デザイン決定までのアイデアスケッチに時間をかけすぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ デザインを決定するまでのアイデアスケッチに時間をかけすぎてしまう。 ○ 提出の締め切り間近になると、あわてて失敗したり、雑になってしまう生徒が複数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制作残り時間と作業にかかる時間を可視化する。また、毎時間確認をする。 ○ 中間鑑賞を設けたり、生徒一人一人に声かけをし、アイデア出しができる環境を整える。

(7) 保健体育科

<p>保健体育科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高める。 ●体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。 ●公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。 ●健康・安全に留意して運動することができる態度を育てる。
--

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎体力が不足している。 ○授業規律の確立が課題である。 ○投力・持久力が不足している。 ○自ら運動技能を高めたり、体力を向上させたりする態度が不足している。 ○運動の特性の理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動時間を確保する。 ○授業規律の確立。 ○投力・持久力の向上に関する補助運動の実施。 ○安全に配慮した指導の実施。 ○運動の特性の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○準備運動を工夫し、基礎体力の向上を図る。 ○教師の指示が伝わるよう視覚的な物を利用し、目標や自分の動きを明確にする。 ○授業において目的をはっきり提示し、達成するための取組を具体化する。 ○自分のことだけでなく、周りの安全面にも配慮できるようにする。 ○特性を理解させるため視覚的な教材を活用する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎体力が不足している。 ○主体的に学習していく態度が身につけていない。 ○自ら運動技能を高めたり・体力を向上させたりする態度が身に付いていない。 ○得意生徒と不得意生徒が多くいる単元がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動時間を確保する。 ○主体的に学習していく態度を育成していく。 ○運動・健康に対する興味・習得。 ○安全に配慮した指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ○準備運動を充実させ、基礎体力を向上させる。 ○係生徒を中心とした自主的な授業形態を継続する。 ○ワークシート、学習カードを活用する。 ○授業内での個別指導の充実、達成感が得られるようにする。 ○互いに協力し合い、安全に実践するためにグループ学習を進め、教え合い活動を充実させる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎体力は向上してきた。 ○心身の健康に対する関心が不足している。 ○自ら運動技能を高めたり、体力を向上させようという態度に個人差がある。 ○部活動引退後、運動量が減るため、習得に時間を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動時間を確保する。 ○心身の健康に関心を高め、生涯にわたってスポーツに親しむための基礎を身に付ける。 ○体を動かすことの楽しさを実感させる。 ○安全、3密に配慮した指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ○準備運動を工夫し、基礎体力向上を目指す。 ○係生徒を中心とした自主的な授業形態及びグループによる教えあい形態を確立していく。 ○ワークシート、学習カード、視覚的教材を活用する。 ○授業内での個別指導で技能を向上させ、達成感を味わわせる。 ○課題解決のため各自が考え、工夫し、さらにグループ学習で互いを高めあえる授業の展開を進める。 ○ゲームを多く取り入れる。

(8) 技術・家庭科 (技術分野)

<p>技術科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●安全危機管理を十分おこなう。 ●本時の授業達成目標を明確にさせ、授業に臨ませる。 ●進んで生活を工夫し創造する能力を育てる。 ●上記の内容を実践する態度を育てる。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	家庭学習の習慣が少なく、学習の積み上げがなされていない生徒が多い。理解力や技能に差がある。	意欲や技能の差もあり、製作の進度に差ができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の計画を示し授業の流れと見通しをもたせ、達成目標を明確にする。 ・個々にも声かけ・巡視する。 ・グループ学習や生徒相互のサポート体制も整え、進度の差をなくすようにする。
2年	家庭学習の習慣がまだ作れていない。学習の積み上げが難しい生徒が多い。ものづくりに対する意欲は高いが、知識・技能には大きな差がある。	実習への意欲は高いが、作業に関する基礎的な技術に差がある。用具の正しい使い方の理解や、正しく安全に使おうとする意欲に差があるため、授業の進度の調整が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れと達成目標を明確にし、学習環境を整え、ゆっくり繰り返し個々にも説明し、理解させることで基礎的な知識、技能の習得と進度の安定を図る。 ・全体と個々に対応する二本立てで指導を進める。
3年	ものづくりに対する知識、意欲・関心ともに二極化している現状であり、実習には理解力や技能に差がある。	用具の取り扱いや知識に関しては個人差が大きい。少数ではあるが意欲や理解力に乏しい生徒がおり、授業進度の調整が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れと達成目標を明確にし、集中力を高めさせる。実習では見本を提示し、目で見て理解したり、やってみるという意欲を高める。 ・作業の遅い生徒については補充授業を行い進度調整を行う。

(8) 技術・家庭科 (家庭分野)

<p>技術・家庭科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得。 ●生活と技術とのかかわりについて理解を深める。 ●進んで生活を工夫し創造する能力を育てる。 ●上記の内容を実践する態度を育てる。
--

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識、向上心がある。 ○基礎的な技能・意欲がある。 ○生活する上で必要な基本的な技術の経験や体験想像力が不足している。 ○自分の生活に結び付けて学習することが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識を増やし、定着させる。 ○基礎的な技能を身に付けさせる学校での調理実習が出来ない。 ○生活する上で必要な基本的な技術の経験や向上心や意欲をもてるように体験の習得の工夫・向上心や意欲を持てるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教室内で映像を見ながら、必要事項を記入する習慣を身に付けさせる。体験は家庭生活に結びつくようにする。 ○授業の見通しをもたせ、生徒自らが動けるようにする。 ○食生活の知識や技能向上が生活の中に必要であることを話し合わせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識・向上心がある。 ○基礎的な技能 (被服技能) が不足している。 ○生活する上で必要な基本的な技術の経験や体験創造力が不足している。 ○自分の生活に結び付けて学習することが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識を増やし定着させる。 ○基礎的な技能に関することは自分の生活や着ている物を想像し、身に付けさせる実習を工夫させる。 ○自分で考え意欲的、能動的に学習し、作業する態度を育成させる。 ○生活する上で必要な基本的な技術の経験や体験の習得の工夫・向上心や意欲を持てるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教室内で静かに説明を聞き、必要事項を記入する習慣を身に付けさせる。 ○ワークシートを活用し、授業の見通しをもたせ、生徒自らが動けるようにする。 ○作品を作る事、自分の体型や体を覆う物について不織布を使い学習させる。 ○自分の体に身に着けるものを作ることで衣生活の楽しさを理解できるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○落ち着いて授業を受けて向上心はある。 ○基礎的な技能が不足している。 ○主体的に学習する態度や発展して考えることが不十分である。 ○作業に見通しをもって取り組む姿勢がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識を増やし定着させる。 ○基礎的な技能を身に付けさせる実習の工夫が必要である。 ○社会の一員として自発的に、作業する態度を育成させる。 ○幼児との交流が出来ないので体験学習が出来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調べ学習の課題をレポートにしたり、発表したりして、思考力を身につけさせる。 ○ワークシートを活用し、授業の見通しをもたせ、生徒自らが動けるようにする。 ○達成感を得られる、時間内で出来るようアドバイスする。 ○自ら進んで作品を作り周囲の人々との交流をする。

(9) 英語科

英語科の重点

- 異文化理解を通じて視野を広める。
- 実践的コミュニケーション能力の育成。
- 協働学習や発表を通して、4技能（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）の力を高める。
- 少人数授業による指導の工夫と改善。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に活動に参加している生徒が多いが、中学校入学時から英語に苦手意識をもっている生徒もいる。特に書字に対する苦手意識が強い。 ○英語を話せるようになりたい、力をつけたいと考えている生徒が多いが、一方で文法面での定着が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書字に関して苦手意識を持っている生徒への意欲を持たせる働きかけ。 ○個々の能力の違いを生かし、高めるための工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単語や英文は、文字だけでなく絵やイメージできるようなPCを利用したサポートを行う。 ○少人数指導によるきめ細かい指導を行う。できるだけ授業内でサポートし、自己評価を見ながらアドバイスを行う。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に活動に参加し、特に自己表現活動を得意とする生徒が多いが、個人差もあり、書字に関して苦手意識を持っている生徒もいる。 ○英語を話せるようになりたい、力をつけたいと考えている生徒が多く、ALTの授業やオーセンティックな内容に興味関心が強い。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習内容の定着に差があり、書く力や自己表現の幅にも個人差が見られる。更なる底上げが必要である。 ②少人数授業の効果的な指導方法と使える英語への指導法の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ①-1 距離を保ったペア活動の機会を増やし、対話的な学びを徹底する。 ①-2 個々の課題提出等へのきめ細かい指導と家庭との連携を行う。 ①-3 基礎基本の確実な定着のために、普通の授業から文法小テスト等を活用した復習に取り組む。 ②オーセンティックな教材を使用し、学ぶ英語から使う英語、自ら発信する英語への転換を図る。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○活動を中心とした授業を展開しているため、意欲的に授業に臨む生徒が多い。 ○文法の確認テストや単元の小テストを行っているため、生徒が小さな成功体験を積みやすくなっている。 ○学力テストの結果から、既習事項の定着があまりできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の定着に差があり、書く力や自己表現の幅にも個人差が見られる。 ○表現活動に対する苦手意識の払拭。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項の復習を兼ねた継続的な言語活動の実施するとともに、小テストの実施とテスト結果を踏まえた継続的な指導を実施する。さらに少人数授業を活用し、一人一人に対してきめ細やかな指導を実践する。 ○パフォーマンステストを複数回開催し、スピーキングやライティングといった表現の活動を積極的に取り入れる。

少人数指導の充実

各学年のメインティーチャーを決め、教材、パワーポイントなどを英語科で共有する。教員間の情報交換を密に行い、生徒一人ひとりの学習状況を把握し、指導の工夫・改善を行う。

ALT活用の工夫

ALTによるスピーキングをモデルとし、生徒のパフォーマンス活動につなげていく。また、ALTによる生徒とのやりとりを数多く設定することでコミュニケーションの機会を増やしている。